

ご利用ください! 町内で活動する 読書ボランティア



東日本大震災から間もなく3年。子どもだけでなく、大人の心も安らげる読み聞かせや読書ボランティアの需要が高まっています。ここでは町内の五つのグループの歩みや活動を紹介します。グループの垣根を越え、町立図書館での読み聞かせ会「お話しゆうたん」で相互交流するなど活発な動きの一方、会員の高齢化や読み手の少なさが悩み。各グループでは、町民の皆さんの協力と積極的な利用を呼び掛けています。

おはなし広場

◆問い合わせ 町立図書館 (☎82-3420)

活動概要 町立図書館や山田北小、山田南小、大沢小の各校で定期的に読み聞かせを行うほか、3カ月健診の親子に読み聞かせ・話しかけの大切さを説く「ブックスタート」などを展開。



クリスマスに町立図書館で読み聞かせをする会員

27年前の昭和61年に発足し、町内では最も長い活動歴を誇ります。会員は6人で、大型切り絵や紙芝居を駆使するなどユニークな読み聞かせが特徴。町保健センターでのブックスタートの活動にも力を入れています。代表の佐藤祐加子さんは「大人の優しい声や匂い、ぬくもりなどを子どもが五感で受け止められるのが読み聞かせ」と語り、心を養う読書の魅力を強調します。

山田町朗読ボランティア

◆問い合わせ 佐々木啓子 (☎82-4771)

活動概要 町内の視覚障がい者らのために月2回発行の「広報やまだ」を朗読し、テープに録音して無償で提供している。織笠小と轟木小、町立図書館でも読み聞かせを行う。



音訳技術向上の講習会に参加、研さんを怠らない

「広報やまだ」の朗読テープを視覚障がい者に届けるため、昭和62年に設立。東日本大震災では当時の昆加代子代表が犠牲になり、存続が危ぶまれましたが、5カ月後、10人の会員が心を一つに再出発しました。現代代表の佐々木啓子さんは「高齢などで目の見えにくい人にも利用してほしい。なくせない活動なので、長く続けるためにも新会員が必要です」と呼び掛けています。

豊小本レジャー

◆問い合わせ 豊間根小学校 (☎86-2412)



昼休みの読み聞かせは児童らの楽しみ

活動概要

ほぼ毎月2回、豊間根小の児童約100人を対象に昼休みに活動。会員は7人おり、豊間根保育園の保育士らの協力も得て各学年ごとに読み聞かせをしている。

平成21年、読み聞かせに熱心だった豊間根小の佐々木茂人校長が当時ⅡがPTAや地域の人たちに呼び掛けて結成されました。代表の佐藤太さんは当時、娘2人が小学生だった関係で参加。本を探して読み込むうち、読み聞かせが児童に有益なのはもちろん、読み手の自己啓発にもなるという気持ちになりました。子どもたちに地域の伝説などを聞かせ、郷土愛を育むことも忘れません。

読書サポーター^{かぜ} 颯・2000の会 山田班

◆問い合わせ 鳥居ハマ (☎84-2451)



絵本を広げる鳥居さん(右)と阿部さん

活動概要

大浦小で毎月2回、朝の始業前の時間に読み聞かせや紙芝居をするほか、町内の保育園・幼稚園、釜石市の公立小や市立図書館、大槌町の高齢者福祉施設にも出向いている。

「子ども読書年」の平成12年に釜石市で発足した颯・2000の会の支部として、同16年にスタート。現在は代表の鳥居ハマさんと阿部シメさんの2人で活動しています。読み聞かせの際は歌を口ずさんだり手遊びをしたり、子どもと一緒に楽しむことを心がけています。2人は「地域に根差した活動が一番。いずれ世代を超えて集える『縁側カフェ』を開きたい」と夢を語ります。

アンルーム

◆問い合わせ 阿部秋子 (☎090-2157-2818)



20年のキャリアを持つ代表の阿部さん

活動概要

昨秋の発足以降、町立図書館での「図書まつり」やクリスマスの読み聞かせ会などに参加。対象の世代を問わず、町内の福祉施設などでも積極的に活動していきたいという。

20年来地元で読み聞かせを続けてきた阿部秋子さんが、颯・2000の会を経て、昨年9月に2人で結成したグループ。ギターの音色と共に、絵本のよさを次の世代に伝えるのが目標だといいます。「子どもは親と読んだ本をよく覚えていて、子どもと一緒にいる時間を大事にしてほしい」と阿部さん。震災で強まった思いやりの心をさらに地域で育む考えです。